

日蓮大聖人御書全集

ときあまごぜんごへんじ

富木尼御前御返事

新版
1316
ゝ
1317

ときあまごぜんごへんじ

富木尼御前御返事

けんじ

ねん

がつ

にち

さい

ときあま

建治 2 年 ('76)

3 月 27 日

55 歳

富木尼

がもくいつかん

筒

た

そうら

お

鵜目一貫ならびにつつひとつ、

給び候い了わんぬ。

矢

走

ゆみ

力

雲

行

竜

やのはしることは弓のちから、くものゆくことはりゅうの

力

夫

仕業

妻

力

富木

殿

ちから、おとこのしわざはめのちからなり。いまときどのの

おん 渡

あま 御 前

おんちから

煙

これへ御わたりあること、尼ごぜんの御力なり。けぶりを

見

ひ

雨

竜

夫

み

みれば火をみる。あめをみればりゅうをみる。おとこを見れ

妻

いま富木 殿

見 参

仕

あま

ばめをみる。今ときどのにげんさんつかまつれば、尼ごぜん

見

覚

をみたてまつるとおぼう。

富木 殿

おんもの 語

そうろう

母

歎

ときどのの御物がたり候は、「このはわのなげきのなか

臨終

善

あま

当

に、りんずうのよくおわせしと、尼がよくあたり、

看病

嬉

世忘

かんびようせしことのうれしさ、いつのよにわするべしと

覚

そうろう

もおぼえず」と、よろこばれ候なり。

覚東

ごしよろう

なによりもおぼつかなきことは御所労なり。かまえて、さ

さんねん

灸治

たま

やまい

ひと

もと三年、はじめのごとくにきゅうじせさせ給え。病なき人

むじよう

免

年

果

も無常まぬかれがたし。ただし、としのはてにはあらず、

ほけきよう

ぎようじや

ひごう し

ごうびよう

法華經の行者なり。非業の死にはあるべからず。よも業病

そうら

ごうびよう

ほけきよう

おんちから

頼

にては候わじ。たとい業病なりとも、法華經の御力たのも

あじやせおう ほけきよう たも しじゅうねん いのち 延 ちんしん

し。阿闍世王は法華經を持って四十年の命をのべ、陳鍼は

じゅうごねん いのち あま 御 前 ほけきよう ぎようじや

十五年の命をのべたり。尼ごぜん、また、法華經の行者な

ごしんじん つき 勝 潮 満

り。御信心、月のまさるがごとく、しおのみつがごとし。い

やまい う いのち 延 ごうじよう 思

かでか病も失せ寿ものびざるべきと強盛におぼしめし、

み じ こころ もの 歎

身を持し心に物をなげかざれ。

歎 い きた とき 壱 岐 対 馬 大 宰 府

なげき出で来る時は、ゆき・つしまのこと、だざいふの

鎌 倉 ひとびと てん らく

こと、かまぐらの人々の天の樂のごとにありしが、当時

筑 紫 向 留 妻 子 征 夫 離

つくしへむかえば、とどまるめこ、ゆくおとこ、はなるる

皮 剥 顔 取 合

ときはかわをはぐがごとく、かおとかおとをとりあわせ、目

め

歎

しだい

離

由比

浜

と目とをあわせてなげきしが、次第にはなれて、ゆいのはま、

稲 村

腰 越

酒 匂

箱 根 坂

いちにちふつか過

いなぶら、こしごえ、さかわ、はこねざか、一日二日すぐ

歩

遠

川

やま

るほどに、あゆみあゆみとおざかるあゆみも、かわも山も

隔 くも

打 添

涙

供

へだて雲もへだつれば、うちそうものはなみだなり、ともな

歎

悲

歎

るものはなげきなり。いかにかなしかるらん。かくなげか

蒙 古

兵 攻

来

やま

うみ

んほどに、もうこのつわものせめきたらば、山か海も

生 捕

船 うち

高 麗

憂 目

遭

いけどりか、ふねの内か、こうらいかにてうきめにあわん。

とが

にほんこく

いつさいしゅじょう

ふぼ

これひとえに、失もなくて日本国の一切衆生の父母たる

ほけきよう ぎようじやにちれん

故

罵

法華經の行者日蓮を、ゆえもなく、あるいはのり、あるい

は打ち、あるいはこうじをわたし、ものにくるいしが、

じゅうらせつ

責

被

十羅刹のせめをかぼりてなれることなり。またまた、これ

ひやくせんまんおくばい 堪

こと

出

きた

より百千万億倍たえがたき事どもいで来るべし。かかる

ふしぎ

め

まえ

ご

覧

不思議を目の前に御らんあるぞかし。

われ

ほとけ

うたが

思

歎

我らは仏に疑いなしとおぼせば、なにのなげきかある

后

何

てん

う

由

べき。きさきになりてもなにかせん。天に生まれてもようし

りゅうによ

跡

継

ま

かはじやはだいびくに

列

なし。竜女があとをつぎ、摩訶波舎波提比丘尼のれちに

連

嬉

なんみようほうれんげきよう

つらなるべし。あらうれし、あらうれし。南無妙法蓮華経・

なんみようほうれんげきよう

とな

たま

きようきようきんげん

南無妙法蓮華経と唱えさせ給え。恐々謹言。

さんがつにじゅうしちにち

三月二十七日

あま御前

尼ごぜんへ

にちれん

日蓮

かおう

花押